

時事

金属疲労と経営疲労

こどもの日である5月5日、大阪の吹田市にある遊園地においてジェットコースターが軌道を外れ、死者が発生するという惨事が起きた。このような防げたかもしれない事故により犠牲になられた方のご冥福をお祈りしたい。

直接的な事故原因は金属疲労による車軸の破断である。だが、その破断を起こさせた間接的な要因は経営疲労といえる。遊園地が検査を怠っただけではなく、危機認識さえ無く車軸を10年以上も取り替えていなかったことに、この事故の本質がある。

このジェットコースターはスリル性の高い直立タイプである。そのため、本来の座るタイプのジェットコースターに比べ車軸にかかる負荷が大きいのである。車軸の交換を放置した経営陣の認識の甘さと厳しさのない経営、要するに経営の老朽化がこの事態を招いたといえる。まさに、経年による物質的金属疲労と構造的経営疲労が同時進行して起きた事故といえる。ただし、経営疲労が回復されていれば、防げた事故である。なぜなら、金属疲労が起きる前に車軸を取り替えられたからである。まさに人的意識レベルで起きた事故である。

また、過去にも経営者として学べる事故例は数多く存在するにもかかわらず、このような事例に恐怖を抱かなかった経営者としての資質に問題があったのだろう。現在では退職年齢が引き上げられたりもしているが、やはり、周囲が高齢者に引退の花道を用意するのも優しさの一つである。本人は老化を気付かないものだし、気付きたくないものである。また、周囲が高齢者を元気者に仕立て上げてしまっている社会風潮にも問題がある。いつまでも高齢者に責任を持たせ、このような結果になることは全てにおいて残念なことである。戦後60年、何も無いところに新しいものを次々に創造して作ればよかった時代は終わりを告げ、これからの時代は政府、自治体、企業など全てにおいてメンテナンス経営の時代に突入したといえる。それには過去の成功体験や過信、又は現在の時代にあった経営感覚を持たない老朽化した経営者は第一線より一步退くべきであろう。やはり、実績のある経営者であればあるほど時代の変化にはついていけないものである。若しくは時代についていけなくなったことにすら気付いていないのかもしれない。今までは経営者としてその時

代に合っていたから実績を上げられたのである。だが、時代は常に進化を続けるのである。今回の事故も金属疲労というより、まさに経営者側の疲労が大きな要因といえる。安全を軽視すれば、このような事故が起きるかも知れないという単純な予測すらできなくなっているのである。構造物同様、経営者も老朽化するのである。高齢者が元気なことは喜ぶべきだが、晩節を汚さないためにもアドバイザー的存在になるべきであろう。いつまでも経営にしがみつくと会社も傾き、このような普通なら起きないような事故も発生するのである。

また仮に今回、ジェットコースターでこの事故が発生していなくとも、この遊園地の他の遊具において更に重大な事故が発生していたら。必ず過去にもこの事故に繋がるような小さな事故が幾度となく発生していたはずである。それを公表しないがために会社自体の緊張感がなくなってしまった。小さなミスの特典で情報を積極的に公開し、自らの襟を正すことで経営や社員の意識に緊張感を持たせていけば、今回の事故は未然に防がれていた可能性は高い。

さらに社会現象的なもので今後危惧するならば、現在では全てがマニュアル化し、ただそれが細分化しているため、何が本質的に重要なのか見失っている。まず、社員には最も重要な柱を何度も徹底して叩き込まなければならない。このように人命を預かりながらスリルを提供する商売ならば、それとは対極的な「安全」というキーワードが基本となる。この「安全」に対する意識の徹底が欠けていたのだらう。瞬間的なミスは誰にでも起きることだが、このような施設での継続的な安全認識の欠如は未必の故意といわざるを得ず、やはり人の命を預かる商売という意識と、経営陣の自覚が欠けていた。

もう一つ重要なことは、遊園地の存在意義と社会意義を同時に教え、社員に自信とプライドを持たせる必要があった。このような事故を起こす企業には、こちらが欠けている場合が多い。社員が自負心や自尊心を持つということは、目に見えない部分での経営の質の向上には欠かせない。

また、賞味期限があるように、国としても補完的に構造物などに関して耐久年数による使用期限を設け、それを過ぎれば取り替えるか解体するなどの措置がなければ、日本全体の構造物の老朽化が始まっているため、このような事例は今後増えるだろう。責任ある立場の者が、先ず認識し、意識を高めるところから始める必要がある。